【主題名】受け継がれる生命　内容項目　「D－（18）　生命の尊さ」
【教材名】バルバオの木（東京書籍　新しいどうとく４）
＜あらすじ＞昔々，広い草原にはたくさんの動物たちがいた。しかし，地球の温度が上がり，雨が降らない日が続き，とうとうバルバオの木一本になってしまった。バオバブの木は，鳥たちに自分の全ての実を与え，シカたちに，全ての葉を与え，ついには，ゾウたちには自分の幹を与えた。バルバオの木はなくなったが，何万年もたち，バルバオの木のあった辺りに，小さな木の芽が生まれた。

【ねらい】

☑ 内容項目の理解
生命の尊さを知り，生命あるものを大切にするという道徳的価値について指導する。

☑ 児童生徒の実態把握
生命は大切であることは分かっている。しかし，自分が他の生き物の命を頂いて生きていることを深く理解してはいない。

☑ 本時のねらいを設定する

判断力	心情	実践意欲	態度

受け継がれている生命に気付き，生命あるものを大切にしようとする道徳的心情を育てる。

【指導の流れ】

段階	主な学習活動　〇主な発問（◎中心発問）	考え議論する道徳ポイント集
導入	**1　本時のねらいとなる道徳的価値について問題意識を持つ。** 〇　みんなが生きるために必要なことは，どのようなことですか。 **2　課題をつかむ。** 生きることと食べることのつながりについて考えよう。	導入の工夫 自分との関わり
展開	**3　教材の内容を把握し登場人物の心情を捉える。** 〇　鳥たちやシカたちは，どのような気持ちでバルバオの実や葉を食べましたか。 〇　ゾウたちは，どのような気持ちでバルバオの幹を食べましたか。 **4　生きることと食べることのつながりについて考える。** ◎　バルバオの木は幹をぞうに食べさせているとき，どのようなことを考えていたのでしょうか。	自分との関わり 多面的・多角的
終末	**5　自己の生き方について考える。** 〇　命のつながりで大切だと思うことは何ですか。	終末の工夫

【板書計画】

第〇回道徳
・生きるために食べる。
・野菜や肉，魚

生きることと食べることのつながりについて，考えよう。

バオバブの木　何十万年も生きている。

バオバブの木の絵

鳥やシカ
・やっと，木があった。
・食べることができる。
・うれしい。
・ありがとう。

ゾウ
・木の幹を食べたら，バルバオの木は死んでしまう。
・食べないと，自分は死んでしまう。
・食べていいのかな。

バルバオの木は，自分の木のみきをゾウに食べさせているとき，どのようなことを考えていたのでしょう。

・ゾウが死んでしまったら，かわいそう。
・自分の体はなくなってしまっても，また，新しい芽が生えてくる。
・ゾウに自分の分も生きてほしい。

→ だれかとだれかの命はつながっている。命をもらっている。

【評価】
登場人物の心情を考えることを通して，生きることと食べることのつながりについて，自分との関わりで考えようとしていたか。